

第5学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案（モデルプラン）

日 時 令和7年2月5日5校時

13：15～14：00

対 象 第5学年1組 29名

指 導 者

1 単元名 「東蒲オリジナルブレンド茶づくり」【A ものづくり】(35時間扱い)

2 単元目標

蒲南茶荘様と連携し、東蒲オリジナルブレンド茶をつくる活動を通して、地域の社会や人々の「Well-being」につながる「ものづくり」に必要な知識・技能等を身に付け、試行錯誤して創り出し、発信する思考力、判断力、表現力等を高め、自他のよさやもち味を生かしながら主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養うようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の社会や人々の「Well-being」に向かって、どのようなものを創り出すかという構想が「ものづくり」のコンセプトであることを理解し、コンセプト設定に必要な知識・技能を身に付けている。 ②コンセプトに基づいて、設計するために必要な知識・技能を身に付けている。 ③デザインしたものを具現化し、発信するために必要な知識・技能を身に付けている。	①「コンセプト」の意味理解に基づいて必要な情報や情報収集の方法を考え、情報を整理・分析して必要なキーワードを導き出し、試行錯誤して「コンセプト」を設定している。 ②コンセプトに合った特徴や効果等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点を踏まえて設計している。 ③様々な人からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、ものづくりや、資料作成、発表準備等に取り組み、具現化したものを相手意識に立って発信している。	①ものづくりのコンセプトを設定するために、様々な人との対話を大切にし、すすんで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。 ②よりよいデザインにするために、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。 ③デザインしたものを具現化し、発信するために、すすんでアイデアを出し合い、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。
④ICTを活用した情報収集や資料の作成に関する知識・技能を身に付けている。	④効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	④モラルや相手意識をもってICTを活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」と定義し、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

(2) 授業パートナーの連携

蒲南茶荘様と連携し、「コンセプト」での講話、「コンセプト」、「デザイン」、「クリエイション」それぞれでのフィードバックを依頼する。蒲南茶荘様との連携を通して、児童が人との対話を大切にし、自他のよさやもち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとする資質・能力の育成が期待できる。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い等」では、蒲南茶荘様との対話を通して、ものづくりのコンセプトを設定するために、すすんで情報を収集することを重点的に指導する。

「コンセプト」では、コンセプト設定に取り組ませることで、地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えることを重点的に指導する。

「デザイン」では、設計を考えさせることで、コンセプトに合った特徴や効果等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点をもって考えることを重点的に指導する。

「クリエイション」では、デザインしたものを具現化させることで、相手意識に立って発信することや、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとすることを重点的に指導する。

(4) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
総合的な学習の時間	S D G s について学ぼう	15
国語	みんなが使いやすいデザイン	8
社会	わたしたちの生活と工業	5
図画工作	あったらいい町どんな町	2
家庭	いっしょに「ほっとタイム」	2
外国語	おすすめの場所を紹介しよう You can drink Japanese tea.	3

5 児童の実態

「地域や社会を良くするために何かしたい」と約 88%の児童が考えており、本単元にも意欲的に取り組む児童が多い。「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」と考える児童が約 82%で、おおむね取り組むことができているが、主体的に十分活動できていないと感じている児童が2割ほどいることが課題である。

「自分のもち味を生かして挑戦しようとしている」と感じている児童が約 88%いるが、「自分にはよいところがある」と感じている児童は約 75%にとどまっている。

協働的な学びを意図的に設定することで、探究課題を自分ごと化し、自他のよさやもち味を生かして協働して考えることができるようにする。

6 指導の手だて

(1) 協働的な学び

個やグループ、学級全体と学習形態を工夫することで、探究課題を自分ごと化し、既習内容を関連付けたり、相手意識に立って多角的に考えたり、自他のよさやもち味を生かして協働して考えることができるようにする。

(2) 授業パートナーとの事前打合せ

授業パートナーと2回以上の打合せを行う。第1回は、電話にて挨拶を行う。管理職と担任から本単元の価値について説明することで、円滑な学習の実現を図る。第2回は、担任との対面で、学習の流れを説明することで、授業に参画してもらうタイミングや回数を伝え、見通しをもつことができるようにする。その後は、メールでのやりとりを必要に応じて適宜行うようにする。

(3) ICT等の活用

主に「デザイン」で、児童用タブレットパソコン端末内のアプリを活用することで、設計を相手意識に立って発信できるようにする。

7 指導計画

時	学 習 過 程	○主な学習活動 ★指導の手だて	◆評価規準【観点】 (方法)
1 ～ 10	コ ン セ プ ト	○授業パートナーの講話を聞き、依頼を受ける。 ★授業パートナーの講話と、店舗見学、お茶を入れて飲む体験等を通して、児童が課題意識をもつことができるようにする。 ○コンセプトを設定するために必要な情報の収集を行う。 ★ブラウザ検索、スレッドでの情報共有、Formsを活用したアンケート調査など、必要に応じた調査を行うことを通して、コンセプト設定に必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けることができるようにする。 ○収集した情報を整理・分析してコンセプトを設定する。 ★付箋や思考ツールを活用して協働的に考えさせることで、地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えられるようにする。 ○設定したコンセプトを授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★授業パートナーから助言や励ましをもらい、必要に応じて再検討することを通して、児童が粘り強く取り組めるようにする。	◆【主】①(発言・行動観察) ◆【知】①(発言・行動観察) ◆【思】①(付箋の内容・話し合い活動の観察)
11 ～ 25	デ ザ イ ン	○取組の内容や方法等の企画案を考えるために必要な情報の収集を行う。 ★ブラウザ検索、スレッドでの情報共有、Formsを活用したアンケート調査など、必要に応じた調査を行うことを通して、デザインに必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けることができるようにする。 ○収集した情報を整理・分析して企画案(内容、方法、回数、時期、時間帯、場所、誰に協力を依頼するか、予算、準備期間、役割分担等)を決定する。 ★付箋や思考ツールを活用して協働的に考えさせることで、効果や実現可能性、持続可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって考察できるようにする。 ○決定した企画案を授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★授業パートナーから助言や励ましをもらい、必要に応じて再検討	◆【知】②(発言・行動観察) ◆【思】②(付箋の内容・話し合い活動の観察) ◆【主】②(発言・行動観察)

		することを通して、児童が粘り強く取り組めるようにする。	
25 ～ 35 (本 時)	ク リ エ イ シ ョ ン	○設計を具現化し、授業パートナーに伝える。 ★授業パートナーから助言や励ましをもらい、必要に応じて再検討することを通して、児童が粘り強く取り組めるようにする。 ○設計の内容のとおり、ブレンド茶を商品化し、実際に発信・販売する。 ★協働的な学びを通して、児童が自分のもち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。	◆【思】③（付箋の内容・話し合い活動の観察） ◆【知】③（発言・行動観察） ◆【主】③（発言・行動観察）

8 本時の指導（全 35 時間中の第 30 時）

（1）目標

販売の際のキャッチコピーを考える活動を通して、コンセプトや、授業パートナーからの評価等を生かし、相手意識に立って試行錯誤することができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて ※指導上の留意点
導 入	○本時のめあてを設定する。 販売するときのキャッチコピーを考えよう ○本時の学習活動の流れを確認する。	
展 開	○個別にキャッチコピーを考えて付箋紙に書く。 ○グループごとに意見を出し合い、ホワイトボードにまとめ、発表する。 ・ 5 年生がつくったお茶 ・ ほうじ茶と梅をブレンドしたお茶 ○学級全体で、大切にしたい言葉を考えるために話し合う。 ・ 「5 年生がつくった」という言葉は入れたい。	★付箋紙に一人一人の考えを書かせることで、自分ごと化できるようにする。 ★話し合う前にポイントを確認することで、コンセプトを生かしたり、相手意識に立ったり、授業パートナーから学んだことを生かして話し合うことができるようにする。 ◆【思③】（付箋の内容・話し合い活動の観察） ※話し合う活動の進め方を提示することで、協働しながら粘り強く話し合うことができるようにする。
振 り 返 り	○学習アプリを活用し、めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返る。	★グループの話し合い方の進め方や相手意識に基づいた記述を取り上げることで、よりよいクリエイションの在り方を共有化できるようにする。